平成30年度第１回倉吉市総合教育会議　会議録

１　日　　時　　平成30年５月30日（水）午後３時00分

２　場　　所　　市民応接室

３　出 席 者　　石田市長
小椋教育長
仲田委員　　田民委員
髙橋委員

会　議　の　経　過

１　開　　会　　午後３時00分

２　市長あいさつ

本日は、第１回総合教育会議にお集まりいただき、ありがとうございます。教育委員会も新しい教育長をお迎えして、新しい体制になってから２か月間が経過したわけですので、教育長の思いをお聞かせいただきたいと思います。それから、私が気になっていることの１つが英語教育の問題で、そのあたりの状況はどうなのかを聞かせていただこうと思っております。地方にいると英語に触れる機会がどうしても少なくなってしまう傾向にあるのではないか、一方で今や日本でも会社の公用語が英語になっている企業も増えてきているという状況ですし、倉吉にある日圧などでも社長や取締役もシンガポールや香港などにいて、幹部の人は英語圏にいるという生活をしておられる。そういった企業が倉吉にも立地をしておられる。倉吉の工場では、公用語はもちろん日本語なのですが、そういった企業が倉吉にも立地をしてきているということを含めると、これからは英語教育が非常に重要になってきているということになります。そういった観点の中で倉吉市として、どう英語教育に取り組んでいくのかということを考えていかなければならないのではないかと思いました。そういった観点からご意見をお聞かせ願えればと思いますので、短い時間ではありますがどうぞよろしくお願いします。

３　教育長あいさつ

市長におかれましては貴重なお時間を本当にありがとうございます。

この会はご承知のとおり、教育委員会の制度が変わって、大津市の事件がきっかけではあ

ったのですが、私たちにとっては市長と直接意見交換をさせていただける貴重な会だと思います。今年度で、倉吉市は４年目となりますので、先ほど市長からございました英語教育については、のちほど資料を基にご説明させていただきたいと思いますが、他市で英語の教員が配置できていないという事案がございました。実は、鳥取県でも近い状況がありまして、倉吉市と中部４町では、必要な教員は全部配置ができているのですが、鳥取、米子については、まだ、入りきっていない学校が数校あると聞いております。本日は、直接意見交換させていただく貴重な会ですし、どこに話題が行ってもいいのではないかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

４　報告事項

(1) 平成 29 年度倉吉市教育行政の点検及び評価について

（各課・館・所長資料に沿って説明）

石田市長　　不登校が減らないですね。どうしてでしょうか。

教育長　　あの手この手を打っているのですが、なかなか難しいです。近年気になっているのは、小学校の中学年や低学年でもぽつりぽつりと年間 30 日以上欠席の子が出ているようです。私が今注目しているのは、幼稚園や保育園と小学校のつながりで、何らかの手が打てないかと考えているところです。

石田市長　　他の自治体に比べてどうですか。中部の４町と比べてどうですか。

学校教育課長　　やはり、中部は高いです。

石田市長　　中部の４町と比べてどうですか。

学校教育課長　　４町と比べた時でもやはり倉吉市は出現率が少し高いです。県内でも中部全体の出現率がだんだん上がってきております。

石田市長　　なぜ、県内で違うのでしょうか。

小椋教育長　　中学生ぐらいの段階だと勉強がわからないということが原因となるケースもあります。授業時間だけではなく、何らかの時間を確保して丁寧にわかるところまで返ってもう一度積み上げる。

石田市長　　塾に通う子どもの率が中部は低いのではないですか。特に都会では、塾がいい受け皿になっているという話も聞きます。

小椋教育長　　はい。確かに塾に行っている比率が中部、倉吉市は低いです。

石田市長　　塾そのものも少ないですからね。

学校教育課長　　ただ、研修会で各大学の教授等に講師として来ていただく中で、倉吉市や中部地区の場合は、不登校といえば欠席が続いている子ということでどんな理由であれ、ほとんどの子を不登校として挙げております。しかし、全国各地でいうとそれぞれ操作されていることがあるといわれております。

石田市長　　それは聞きますが、休んでいるのは事実ですからね。

委　　員　　先ほどの家庭教育の充実というのが出ておりましたが、重点課題として挙げる中で、今教育長が言われましたように、幼稚園、保育園、もっとさかのぼれば母子手帳をお母さんがもらって、その家庭で子どもが生まれて保健師

さんが関わりながら予防接種を受けるとか、健診に来るとかそういった流れをトータルで見てどうなのかが必要なのではないかという話を教育委員会の中でしておりますので、教育委員会の話だけではなく社会福祉行政と情報交換をしながらやっていく必要があるのではないかと思います。

石田市長　今、福祉では一貫したケアが大切だということで、それを非常に重視しております。

学校教育課長　不登校の家庭の特徴として多いのが、子どもを押し出してくださらない家庭が増えております。子どもが行きたくないと言ったら、保護者は休ませてしまう。そういった家庭が多くなっております。学校は何とかしようとして家庭訪問等をさせていただくのですが、「行きたくないといっているのになぜ無理やり行かせようとするのか」といった家庭もございます。学校も何とか保護者に理解をしていただきながら、少しでも学校に来させるよう努力をしているところです。

石田市長　発達障がいとの兼ね合いというのはどうですか。

学校教育課長　やはり兼ね合いはございます。その部分につきましては、市からアドバイザーを配置していただいておりますので、相談体制をしっかりと組みながら学校と連携して対応させていただいております。

石田市長　学校によって不登校が特に顕著なところはないですか。

学校教育課長　数で多いのは河北中学校です。西中学校も昨年度は数が少し減っておりますが、河北中、西中を中学校では重点校として指定させていただいておりますし、小学校では小鴨小、河北小を重点校として月に1回、教育委員会から出かけて行って合同で情報交換などの会を持たせていただいております。

小椋教育長　西中に配属となったときには最初は20人を超えておりました。これを何とかしなければいけないということで次の年に13人まで減らしたのですが、そこからなかなか減りませんでした。やはり減らすことが難しかったです。西中のケースは勉強がわからないということが多かったように記憶しております。それから、少しのことで躓いて、そこから起き上がることができないという感じもしております。小さい頃から心も体も、もう少したくましく育てることが必要なのかもしれないと思います。

委　員　保護者の方でも一時期、いきたくない子を無理やり行かせるのはよくないことだということがあったのですが、何もしないという保護者のスタンスもあるような気がします。無理には行かせないけれども、それなりの手当てをしてきっかけがあったら行けるようにしていればいいのですが、何もしない親が結構あるのではないかという気もします。もともとのスタートの時でも、学校とのトラブルなどで休む場合もありますし、生活習慣としていつまでも夜だらだらと起きていて、朝起きられず学校に行けないから勉強がわからなくなる。わからないから余計に行きたくないという悪いサイクルになる子が中にはある気がします。

石田市長　　親も子供が学校に行きたくないのは何が原因なのかという理由を追及して、原因を解消してやる努力をしないといけないでしょう。それをしないでいるのは、本当はだめですね。

委　　員　　専門の先生に相談したり、親も問題を抱えたりしているので、そこがきちんとコミュニケーションが取れるといいと思うのですが、学校から行っても保護者の方も会われないとかあります。

石田市長　　親教育も必要かもしれませんね。

小椋教育長　　はい、かなり難しいです。

委　　員　　けっこう両極端です。私も保護者として見ているとやはり両極端おられます。一生懸命になる保護者はいろいろと相談をしておられるけれども、半分あきらめてしまってほったらかしという方もおられる。

石田市長　　授業には来ないけれども放課後児童クラブには来るという子はいませんか。

委　　員　　そこはないですね。ただ、運動には来るという子はあります。みんなと運動がしたいといって来る子もいます。一概には言えないですが、小学校では両極端に見えるなと思います。

小椋教育長　　なかなか特効薬のようなものがないです。今、自分の部屋にいても楽しいことがたくさんあるので、特に友達と遊ばないといけないとかではない。パソコンもあり、ゲームもあり、スマホもあり、そこから出ていこうとしないという傾向もありはしないかと心配はしております。

石田市長　　そうなのですが、他自治体の水準と大体同じならいいのですが、倉吉市がほかに比べて多いということになるとどこかに別の問題があるのではないかと思います。

委　　員　　今、eテレをたまに見ているのですが、あれをもっと早く見ておればもっといい子育てができたなと思うのですが、幼稚園・保育園の３歳児とか１歳半とか、集団で集まってきたときに距離感を一生懸命考えているといっておりました。友達と遊べること遊べない子がその中で出てきて、おもちゃを貸してあげられる子とひとりじめする子、その中でけんかが起きてどう関わっていくのかなどいろいろなテーマがある。このあたりが保育園・幼稚園の中で保育士さん、先生方がどういった関わり方をして育てておられるのか。それから、もちろん家庭の教育というのが本当にやっておられるのか。ご飯を食べていてもご両親が自分のスマホを見ながら個食に入る。みんないるのだけれど個食。テレビは見ない。そのような時代背景の中で、どうやって子育てをしたらいいのか。ご飯を食べていてもスマホを近くにおいていて、ラインなどが入ってくるので視線がそちらに向きます。そういった親御さんが多くおられて、卒業式、入学式をしてもそうですが、スマホなどのレンズの向こうに子どもがいて、直接顔を見ていない親、子どももレンズを通して親を見ている。これが当たり前の世の中になっているので、その中で子が親からど

うやって学ぶのか、このあたりは非常に回答のない世界だと思います。

石田市長　皆さんがご苦労をされているようです。

小椋教育長　粘り強く頑張りますのでよろしくお願いします。

石田市長　それから、伝建地区の復旧はもう少しペースが上がらないものかと思います。倉吉市は4割ぐらいと書いてありますが。

文化財課長補佐　平成28年度地震が発生して平成29年度までやってきているのですが、これから30年度に取り組もうとしているところは難しいケースです。最初に手を付けられたところは割とすぐにやろうという方が多くて進んできているのですが、これから取り組むところはなかなか難しいところで、家族やお金の問題で難しいケースが残ってきてしまっています。そこをなんとか回していかなければいけないのです。

石田市長　進まないなら進まないなりに、個々の問題を整理してください。

小椋教育長　報告書にも書いてありますけれども、解体しようと思っておられたところを８件食い止めたというところがこれはすごいことだと思いました。

石田市長　これはいいことですね。

小椋教育長　今もそういったやり取りを丁寧に文化財課はやっておりますので、伝建地区内にブルーシートはなくなっております。残っているブルーシートは伝建地区よりも少し外側です。そこを解体する費用が例えば200万～300万かかるとしたら、そのお金で修理されませんかというやり取りを個別にしております。

石田市長　桑田醤油さんはなぜ修理されないのですか。

文化財課長補佐　所有者が煙突の修理については、あまり前向きではないようです。

石田市長　川沿いの壁も落ちたままですね。壁が落ちたままになっているところは、あそこぐらいですね。

委　員　あそこはよく見えるところですね。

事務局長　30年度末で６割まで修復する予定ですね。

小椋教育長　そうです。今年度も40棟建て替えて、去年の続きを含めると80件ぐらいは修理工事を抱えております。進行中です。

委　員　今の市長のお話にあった家族間でもめている、資金がないなどの分類で分けるとどういうふうになるのかということを今ここで数字が出ますか。

事務局長　今作成中です。

委　員　それによって対応の仕方がまた違ってくるでしょうし、予算措置も違ってくるかもしれません。

小椋教育長　８割程度は国などのいろいろな補助でもらえるのですけれども残りの２割が数百万円になります。その数百万円が工面できにくいというお家も結構あります。

委　員　クラウドファンディングで集めてはどうでしょう。金融機関とも相談され

るのが良いと思います。

５　協議事項

(1) 平成 30 年度倉吉市教育委員会の重点施策に基づく実施計画について

(2) 英語教育の取り組みについて

（各課・館・所長資料に沿って説明）

委　　員　　図書館さんに英語を楽しく学ぶという観点で英語の専門コーナーを作ってもらったらいいのではと思いました。外国語授業の指定校があるわけですから、ＤＶＤでも作って配布するのも一つの方法ではないかと思います。パソコンの共有ホルダに映像が入れば、それを視聴すれば、先生方もやり方もわかりますし、ＤＶＤを流せば生徒は同じように授業ができると思います。そういったことも一つの案ではないかと思いました。

昨年初めて英語の授業を見ましたが、迫力がありました。小中学校全部英語で話をされていました。

小椋教育長　　オールイングリッシュです。

石田市長　　どっぷり浸かるということが大事なのでしょうね。

小椋教育長　　イングリッシュシャワーという言い方を何年か前からしております。冒頭、市長がおっしゃったように、倉吉市の子どもは、全国学力学習調査で「大きくなったら国際的に働いてみようと思っているか」ということが質問項目にあるのですが、割合が全国平均よりも低いです。国外に行くという意識になかなかなっていないというところです。

石田市長　　留学する割合が少ないですね。

小椋教育長　　機会を見て、これからの時代は英語が大事だよということは子どもたちに周知していかなければいけないと思いますが、いい意味であまり勉強すると帰ってこないから、という雰囲気もあります。

石田市長　　それもわからなくもないけれどもね。

小椋教育長　　そうじゃなくて、この子は可能性を持っているからもっとさせましょう、というのですけれどもなかなかそうはいかないです。

委　　員　　親の方が海外の仕事は倉吉にはないという頭があります。勉強してそれを活かそうとすると出てしまう、という考え方があります。ただ、今東高でもグローカルという学習が始まったのですけれども、大江の郷とかいろいろなところに行ったりするのですが、そこに呼び込むためには英語の能力も必要だし、そういったことを経験していくと、田舎で起業して呼び込むという手もあるという意識が少し芽生えてきたように思います。小さい時はそういった意識がないです。私の仕事の関係で、海外でフェアトレードの関係の仕事についておられる方がいて、若い方なのですが、どうしてこの仕事に就かれたのですか、と聞いたら、「普通の大学の募集を見ていきました」と言われました。私たちは意識が高い人はそういう家庭に育って、高い志で行くと思っ

ていたのですが、「大学でバイトの募集があったから行ってみたら、面白かったのでそのまま入りました」というふうに、海外が身近なのですね。その方は横浜の方でした。保護者も周りも海外での仕事の経験があり、自分も特別なことと思っていなくて、おもしろそうだったから入った。ただ、私の子どもが中学校の時に、親の職業を調べてきなさいという授業があったのですが、それによって世の中にはどんな職業があるのかという学習だとは思うのですが、並んでいるのを見たら同じような職業ばかりです。公務員、先生、近くの会社。その中に海外に行く仕事というのはたくさんあるのに、そういうものに普段接していなくて、だから思いつきもしない。高校に入ってから初めて、授業をしてもらって鳥取県内でも英語を使ってしなければならない仕事がもちろんあるし、作ればできるし、最近になってやっと意識し始めたようです。英語が必要な仕事があるという意識すらない。私の姪は大阪で就職しているのですが、研究関係なので、研究論文が全部英語だそうです。英語が苦手な子であったので、すごく苦労していて、最近はグーグルの翻訳機能もあるのですが、それを使って翻訳すると盗まれるから使うなと言われている。だから、論文は自力で読まなければいけないし、自分が出すのも英語です。本当に英語は必要だということを今になってから実感しています。それを子どもたちに言ったら、やはり英語は必要なのだなということに気が付くようです。英語が必要な世の中なのだということを倉吉市で過ごしていると気が付かない。

石田市長　ソフト開発をしている会社などでもインターネット、パソコン関係は大体英語です。倉吉市の企業でも海外に工場進出しているところはたくさんあります。だから、そういう環境になってきているのでしょうね。好むと好まざるとにかかわらず必要になってきているということを認識しなければいけないと思います。

委　員　親の方もそういう認識で、英語を勉強したら海外に行ってしまうという認識ではなくて、英語を勉強して海外の人を倉吉に引っ張ってくるぐらいの仕事があればいい。英語のテストの点が両極端にフタコブラクダのようになっています。親が全く意識のない家もあるし、非常に熱心な方は幼稚園・保育園の時から塾に通わせて英語をやっている。本当に極端な感じがあるので、気が付いている保護者さんは一生懸命やっているし、そうでない保護者さんは何もしないという感じがあります。

委　員　専門的に英語をしようと思わないで学んで、そのまま忘れてきたという年代です。

委　員　必要ないと言えばないのですが、これからは必要になってくるのだということに気が付く機会がないといけないです。

小椋教育長　間違いなく必要になってくると思います。全国の学力調査に英語が加わったのもそういった意図が当然あると思いますし、グローバルと今回言ってお

ります。調査の対象に英語が加わるのは中学校３年生だけなのですが、何年かすると小学校６年生にも英語を課してみたらという意見が出てくると思います。そうしたら倉吉市全体の平均も出てきます。

委　　員　　倉吉市の幼稚園で英語をしているところもありますよね。

石田市長　　あります。

委　　員　　それが売りの一つということもあるのかもしれませんが、スポーツとか英語とか世界につながっているということをどの時点でどう教えていくのか。私も買い物に行ったときには、産地を見て買う。自分が海外に関わる仕事であるということも関係しているのかもしれませんが、おもちゃであっても製造元が海外で注意書きも英語で書いてあるので、そのあたりは身近になってきているし世界が繋がっている。日本だけで単独で生きていくことはできない。そういったことがある程度、小さい時から大きくなるまでの段階を踏みながら知らしめていって、関心を持たせていくということも大切なのではないかと思います。

委　　員　　こちらの中学生たちと台湾に行った時ですが、台湾では小学校１年生から英語をしています。中学校になったらペラペラです。こちらの中学生は英語がしゃべれない。プログラミング授業も自分でプログラミングして車を動かしている。ものすごく慣れている。中国語でなく英語で通用するので、驚きました。こういったことが子どもたちには刺激になると思いました。海外は小さい時からやっています。

委　　員　　生きていくために必要なのでしょうね。収入を得るためにもやっておかないとだめだということが根底にはあると思います。

委　　員　　海外の人と触れ合う機会が増えると子どもも意識します。私の子どもも羅州市に交流で行かせていただいて、うちにもホームステイで来てもらったのですが、本当に英語がしゃべれなければ何も通じないということで、高校になったら東高は行きますし、向こうからも来る。そうなると、向こうの子どもさんは英語をネイティブのようにペラペラでしゃべられる。こちらはたどたどしい英語で、なんとか通じる程度で話す。でも、そういったことを経験していると、これからは英語をしゃべらないといけないのだと意識してきたようです。そうやって実際に使う場面を、授業ももちろん大事ですが、普段でもそうやって使う場面ができる。倉吉駅でも一度切符売り場で海外の方が来られて、質問されたことにそこの方が英語でさっと答えられた。そういったところでも必要だと思いますし、倉吉でもバルコスがあります。そこも海外へ行っておられるので、やはり日本語だけではだめだということを教わってきます。実際に英語が必要な場面を子どもたちに教えてやったり、体験さえてやったり、そこから来られた講師の方に教えていただくというのはすごく刺激になると思います。今、学校で習っている英語がどこで使うことがあるのかと思ったらやる気がなくなってしまうのですが、実際に使っている人

が倉吉でもこんなにいるというだけでもやる気を引き出すきっかけになると思うので、講師の先生を迎えたり行かせたりすると刺激になると思います。

石田市長　倉吉で英語を使って仕事をしている人で、倉吉で生まれ育っている人を呼んで話をしてもらうというのはいいですね。

委　員　聞いてみると倉吉からも留学に行かれている方もあります。

小椋教育長　やはり留学がいいです。高校生は英語を使わざるを得ない状況に１ヶ月ぐらい放り込むとものすごく英語をしゃべれるようになって帰ってきます。国の補助制度もたくさんあります。中学生を１ヶ月海外に行かせるのは少し勇気がいりますが、高校生ぐらいであればどんどん行かせるべきだと思います。

石田市長　ロータリーが１年間行かせる事業をやっておりますね。それを見ていると、女の子がよく行っています。勇気があるなと思います。

小椋教育長　高校生を見ていると、間違いなくしゃべれるようになって帰ってきています。

石田市長　帰ってきたら１年留年ですからね。それでも行くのですからね。

委　員　大学に行く子は理系であろうが文系であろうが、英語が必要になってきていて、英語だけはやっておきなさいと言います。

小椋教育長　大学受験も国内ではない大学を目指す子もいます。このあたりにはあまりいないかもしれませんが、都会では海外の大学を目指す子もたくさんいます。

委　員　英語の試験も私たちの頃のようにただ聞いて書くだけではなくて、きちんと受け答えしなければいけない。聞く、話す。読んで書くだけではなく、私たちの時代では考えられないぐらいそればかりやっております。本当に使える英語をどんどん教えるようになってきている。大学受験も制度が変わってくるとなると英語は必要なものということを親の側が認識しないといけないと思いました。

小椋教育長　中学校の英語も今おっしゃるように、一生懸命チャレンジしておりますので、ぜひ今度中学校に行かれたら英語の授業の参観をお願いします。

委　員　私たちの時の英語のリスニングは、わかりやすいように発音したものだったのが、今は早いですからね。

小椋教育長　授業中は少々文法を無視してもいいので、自分のわかる単語で何とか相手に英語で伝えるということを一生懸命やっています。

石田市長　土曜授業を活用して、今日は一日英語だけで過ごす時間を作るとかね。

学校教育課長　今、教育長がよく言われるのが、特に中学校ですが、英語の先生は、授業中に日本語でしゃべるなということです。授業中はほとんど英語でいきなさいと言っております。県もその流れで小学校を含めて先生方の英語力を高めるために、試験の費用を持つということで、英検や TOEIC を受けるという形をとっております。なかなか先生方も勉強する時間が取れないので、点数も伸びてこないのですが、今、市長がおっしゃいますように土曜日一日でも英語に浸かるという時代も来るのではないかと思っております。

委　　員　　上北条小学校で、以前、５、６年生が指定か何かになっていたのですが、どうせなら１年～４年生も対象にということで、倉吉イングリッシュというところから先生が来て時々教えていただいていました。先生ばかりでは大変なので、地域におられる留学経験などのある方を発掘してきて、１日英語で過ごすようなことや、地域の英語の話せる方を集めてきてみんなでわいわい話すようなことをしたらと思います。先生だけだとただでさえ大変なのに、英語もしっかり勉強してくださいとなると本当に大変なので、地域の人の力も使えたら、地域の方との交流にもなります。

石田市長　　それはその方がいいと思います。

委　　員　　実際にきちんとネイティブでしゃべってこられた方もおられますのでね。

小椋教育長　　どうすればそういった方を探せれるのでしょうか。口コミですか。

委　　員　　私はたまたま自分の知り合いの娘さんがそうでした。

小椋教育長　　本当のところ、県はそういった方を雇って小学校に配置したいのです。

委　　員　　職業としてということですか。

小椋教育長　　ただ、教員免許がないといけないのかもしれないのですが、人が足りないです。

委　　員　　探せばあるかもしれませんね。

石田市長　　今日はいろいろとお聞かせいただいてありがとうございます。いろいろとたくさん課題はあるわけですが、一歩ずつですので着実に進めていっていただけたらと思います。英語の問題も人が必要ですし、お金も必要だろうと思います。なかなか一筋縄ではいかないと思いますけれども、これも大事なテーマだと思いますので、先を見据えて先手を打ってやっていただけたらと思います。

それから、不登校の問題は、今、非常に大事なことではないかと思いますので、あきらめずに着実に努力していければと思いますのでよろしくお願いします。

今日はありがとうございました。

６　**閉会**　　午後４時25分　終了